

- 小倉百人一首一覧・暗記帳<sup>\*1</sup> から決まり字 で索引をでっち上げる
- jsarticle で実効するときはプリアンブルのコメントを参考にして下さい。
- 一段に変更するマクロは index.sty の theindex をカスタマイズする

```
% rg -B2 -A50 theindex /usr/local/texlive/2020/texmf-dist/tex/latex/index/index.sty
200-\@ifclassloaded{article}{%
201-
202:   \renewenvironment{theindex}{%
203- ...
           article 環境ようなので 200 行目を jsarticle にするとかする
230- ...
231-}%
232:   \renewenvironment{theindex}{%
233- ...
           article 環境以外（今回は jsbook にした）ので
           ここを取り出して一段落にカスタマイズ
260- ....
261-}
```

---

<sup>\*1</sup> <https://www.8toch.net/hachiben/anki.cgi?mid=CL00001>

# 上の句

あきか	秋風に たなびく雲の たえ間より …………… (左京大夫顕輔-79), 1
あきの	秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ…………… (天智天皇-1), 1
あけ	あけぬれば 暮るるものとは 知りながら …………… (藤原道信朝臣-52), 1
あさじ	浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど…………… (参議等-39), 1
あさばらけあ	朝ばらけ 有明の月と見るまでに …………… (坂上是則-31), 1
あさばらけう	朝ばらけ 宇治の川霧 絶え絶えに …………… (権中納言定頼-64), 1
あし	あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の…………… (柿本人麻呂-3), 1
あわじ	淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に…………… (源兼昌-78), 1
あわれ	あはれとも いふべき人は 思ほえて…………… (謙徳公-45), 1
あい	あひみての のちの心に くらぶれば…………… (権中納言敦忠-43), 1
おおこ	あふことの たえてしなくば なかなか…………… (中納言朝忠-44), 1
あまつ	天つ風 雲のかよひ路 吹きとぢよ…………… (僧正遍昭-12), 1
あまの	天の原 ふりさけみれば 春日なる…………… (阿倍仲麻呂-7), 1
あらざ	あらざらむ この世のほかの 思ひ出に…………… (和泉式部-56), 1
あらし	あらし吹く み室の山の もみぢばは…………… (能因法師-69), 1
ありあ	有明の つれなく見えし 別れより…………… (壬生忠岑-30), 1
ありま	ありま山 ゐなの笹原 風吹けば…………… (大式三位-58), 1
いに	いにしへの 奈良の都の 八重桜…………… (伊勢大輔-61), 1
いまこ	今こむと いひしばかりに 長月の…………… (素性法師-21), 1
いまは	いまはただ 思ひ絶えなむ とばかりを…………… (左京大夫道雅-63), 1
うか	憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ…………… (源俊頼朝臣-74), 1
うら	うらみわび ほさぬ袖だに あるものを…………… (相模-65), 1
おく	奥山に もみぢふみわけ なく鹿の…………… (猿丸太夫-5), 1
おと	音に聞く 高師の浜の あだ波は…………… (祐子内親王家紀伊-72), 1
おおえ	大江山 いく野の道の 遠ければ…………… (小式部内侍-60), 1
おおけ	おほけなく うき世の民に おほふかな…………… (前大僧正慈円-95), 1
おも	思ひわび さてもいのちは あるものを…………… (道因法師-82), 1
かく	かくとだに えやはいぶきの さしも草…………… (藤原実方朝臣-51), 1
かさ	かささぎの 渡せる橋に おく霜の…………… (中納言家持-6), 1
かぜそ	風そよぐ ならの小川の 夕ぐれは…………… (従二位家隆-98), 1

- かぜを 風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ……………(源重之-48), 1  
 きみがためは 君がため 春の野に出でて 若菜つむ……………(光孝天皇-15), 1  
 きみがためお 君がため 惜しからざりし いのちさへ……………(藤原義孝-50), 1  
 きり ぎりぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに……………(後京極摂政前太政大臣-91), 1  
 ころあ 心当てに 折らばや折らむ 初霜の……………(凡河内躬恒-29), 1  
 ころに 心にも あらでうき世に ながらへば……………(三条院-68), 1  
 こぬ こぬ人を まつほの浦の 夕なぎに……………(権中納言定家-97), 1  
 この このたびは ぬさもととりあへず 手向山……………(菅家-24), 1  
 こい 恋すてふ 我が名はまだき 立ちにけり……………(壬生忠見-41), 1  
 これ これやこの 行くも帰るも わかれては……………(蟬丸-10), 1  
 さ さびしさに 宿を立ち出でて ながむれば……………(良選法師-70), 1  
 しの しのぶれど 色に出でにけり 我が恋は……………(平兼盛-40), 1  
 しら 白露に 風の吹きしく 秋の野は……………(文屋朝康-37), 1  
 す 住の江の 岸による波 よるさへや……………(藤原敏行朝臣-18), 1  
 せ 瀬をはやみ 岩にせかる 滝川の……………(崇徳院-77), 1  
 たか 高砂の をのへのさくら さきにけり……………(前権中納言匡房-73), 1  
 たき 滝の音は たえて久しく なりぬれど……………(大納言公任-55), 1  
 たご 田子の浦に うちいでてみれば 白妙の……………(山部赤人-4), 1  
 たち 立ちわかれ いなばの山の 峰に生ふる……………(中納言行平-16), 1  
 たま 玉の緒よ たえなばたえね ながらへば……………(式子内親王-89), 1  
 たれ 誰をかも しる人にせむ 高砂の……………(藤原興風-34), 1  
 ちぎりお ちぎりおきし させもが露を いのちにて……………(藤原基俊-75), 1  
 ちぎりき ちぎりきな かたみに袖を しぼりつつ……………(清原元輔-42), 1  
 ちは ちはやぶる 神代もきかず 竜田川……………(在原業平朝臣-17), 1  
 つき 月みれば ちぢにものこそ かなしけれ……………(大江千里-23), 1  
 つく つくばねの 峰よりおつる みのの川……………(陽成院-13), 1  
 ながか 長からむ 心もしらず 黒髪の……………(待賢門院堀河-80), 1  
 ながら ながらへば またこのごろや しのばれむ……………(藤原清輔朝臣-84), 1  
 なげき なげきつつ ひとりぬる夜の あくるまは……………(右大將道綱母-53), 1  
 なげけ なげけとて 月やは物を 思はする……………(西行法師-86), 1  
 なつ 夏の夜は まだ宵ながら あけぬるを……………(清原深養父-36), 1  
 なにし 名にし負はば 逢坂山の さねかづら……………(三条右大臣-25), 1  
 なにわえ 難波江の 蘆のかりねの ひとよゆゑ……………(皇嘉門院別当-88), 1  
 なにわが 難波潟 みじかき蘆の ふしのまも……………(伊勢-19), 1

- はなさ 花さそふ 嵐の庭の 雪ならで ..... (入道前太政大臣-96), 1  
 はなの 花の色は うつりにけりな いたづらに ..... (小野小町-9), 1  
 はるす 春過ぎて 夏来にけらし 白妙の ..... (持統天皇-2), 1  
 はるの 春の夜の 夢ばかりなる 手枕に ..... (周防内侍-67), 1
- ひさ 久方の 光のどけき 春の日に ..... (紀友則-33), 1  
 ひとは 人はいさ 心も知らず ふるさとは ..... (紀貫之-35), 1  
 ひともし 人もをし 人もうらめし あぢきなく ..... (後鳥羽院-99), 1
- ふ 吹くからに 秋の草木の しをるれば ..... (文屋康秀-22), 1
- ほ ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば ..... (後徳大寺左大臣-81), 1
- みかき みかきもり 衛士のたく火の 夜はもえて ..... (大中臣能宣朝臣-49), 1  
 みかの みかの原 わきて流るる いづみ川 ..... (中納言兼輔-27), 1  
 みせ 見せばやな 雄島のあまの 袖だにも ..... (殷富門院大輔-90), 1  
 みち みちのくの しのぶもぢずり 誰ゆゑに ..... (河原左大臣-14), 1  
 みよ み吉野の 山の秋風 さ夜ふけて ..... (参議雅経-94), 1
- む 村雨の 露もまだひぬ まきの葉に ..... (寂蓮法師-87), 1
- め めぐりあひて 見しやそれとも わかぬまに ..... (紫式部-57), 1
- もも ももしきや ふるき軒ばの しのぶにも ..... (順徳院-100), 1  
 もろ もろともに あはれと思へ 山桜 ..... (前大僧正行尊-66), 1
- やす やすらはで 寝なましものを さ夜ふけて ..... (赤染衛門-59), 1  
 やえ 八重むぐら しげれる宿の さびしきに ..... (恵慶法師-47), 1  
 やまが 山川に 風のかけたる しがらみは ..... (春道列樹-32), 1  
 やまざ 山里は 冬ぞさびしさ まさりける ..... (源宗行朝臣-28), 1
- ゆう 夕されば 門田の稲葉 おとづれて ..... (大納言経信-71), 1  
 ゆら 由良のとを 渡る舟人 かぢをたえ ..... (曾禰好忠-46), 1
- よのなかは 世の中は つねにもがもな なぎさこぐ ..... (鎌倉右大臣-93), 1  
 よのなかよ 世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る ..... (皇太后宮大夫俊成-83), 1  
 よも 夜もすがら 物思ふころは 明けやらで ..... (俊恵法師-85), 1  
 よを 夜をこめて 鳥のそらねは はかるとも ..... (清少納言-62), 1
- わがい わが庵は 都のたつみ しかぞすむ ..... (喜撰法師-8), 1  
 わがそ わが袖は 潮干にみえぬ 沖の石の ..... (二条院讃岐-92), 1  
 わすら 忘らるる 身をば思はず ちかひてし ..... (右近-38), 1  
 わすれ 忘れじの ゆく末までは かたければ ..... (儀同三司母-54), 1  
 わたのはらこ わたの原 こぎいでてみれば 久方の .. (法性寺入道前関白太政大臣-76), 1  
 わたのはらや わたの原 八十島かけて こぎいでぬと ..... (参議篁-11), 1

わび—わびぬれば いまはたおなじ 難波なる ..... (元良親王-20), 1

おぐ—小倉山 峰のもみぢ葉 心あらば..... (貞信公-26), 1

# 索引

- あきか** 秋風に たなびく雲の たえ間より—もれいつる月の 影のさやけさ (左京大夫顕輔 さきょうの だいぶあきすけ -79), 1
- あきの** 秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ—我が衣手は 露にぬれつつ (天智天皇 てんじてんのう -1), 1
- あけ** あけぬれば 暮るるものとは 知りながら—なほうらめしき 朝ぼらけかな (藤原道信朝臣 ふじわらのみちのぶあそん -52), 1
- あさじ** 浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど—あまりてなどか 人の恋しき (参議等 さんぎひとし -39), 1
- あさぼらけあ** 朝ぼらけ 有明の月と見るまでに—吉野の里に 降れる白雪 (坂上是則 さかのうえのこのり -31), 1
- あさぼらけう** 朝ぼらけ 宇治の川霧 絶え絶えに—あらはれわたる 瀬々の網代木 (権中納言定頼 ごんちゅうなごんさだより -64), 1
- あし** あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の—ながながし夜を ひとりかも寝む (柿本人麻呂 かきのもと のひとまる -3), 1
- あわじ** 淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に—幾夜ねぞめぬ 須磨の関守 (源兼昌 みなもとのかねまさ -78), 1
- あわれ** あはれとも いふべき人は 思ほえて—身のいたづらに なりぬべきかな (謙徳公 けんとくこう -45), 1
- あい** あひみての のちの心に くらぶれば—昔は物を 思はざりけり (権中納言敦忠 ごんちゅうなごん あつただ -43), 1
- おおこ** あふことの たえてしなくば かなかに—人をも身をも 恨みざらまし (中納言朝忠 ちゅうなごんあさただ -44), 1
- あまつ** 天つ風 雲のかよひ路 吹きとぢよ—をとめの姿 しばしとどめむ (僧正遍昭 そうじょうへんじょう -12), 1
- あまの** 天の原 ふりさけみれば 春日なる—三笠の山に いでし月かも (阿倍仲麻呂 あべのなかまろ -7), 1
- あらざ** あらざらむ この世のほかの 思ひ出に—いまひとたびの あふこともがな (和泉式部 いずみしきぶ -56), 1
- あらし** あらし吹く み室の山の もみぢばは—竜田の川の 錦なりけり (能因法師 のういんほうし -69), 1
- ありあ** 有明の つれなく見えし 別れより—あかつきばかり うきものはなし (壬生忠岑 みぶのただみね -30), 1
- ありま** ありま山 ゐなの笹原 風吹けば—いでそよ人を 忘れやはする (大貳三位 だいにのさんみ -58), 1

- いに いにしへの 奈良の都の 八重桜—  
けふ九重に 匂ひぬるかな (伊  
勢大輔 いせのたいふ -61), 1
- いまこ 今こむと いひしばかりに 長月  
の—有明の月を まちいでつるか  
な (素性法師 そせいほうし  
-21), 1
- いまは いまはただ 思ひ絶えなむ とば  
かりを—人づてならで 言ふよし  
もがな (左京大夫道雅 さきよ  
うのだいぶみちまさ -63), 1
- うか 憂かりける 人を初瀬の 山おろし  
よ—はげしかれとは 祈らぬもの  
を (源俊頼朝臣 みなもとのと  
しよりあそん -74), 1
- うら うらみわび ほさぬ袖だに あるも  
のを—恋にくちなむ 名こそをし  
けれ (相模 さがみ -65), 1
- おく 奥山に もみぢふみわけ なく  
鹿の—声聞く時ぞ 秋はかなし  
き (猿丸太夫 さるまるだゆう  
-5), 1
- おと 音に聞く 高師の浜の あだ波は—  
かけじや袖の ぬれもこそす  
れ (祐子内親王家紀伊 ゆうし  
ないしんのうけのきい -72), 1
- おおえ 大江山 いく野の道の 遠け  
れば—まだふみもみず 天の橋  
立 (小式部内侍 こしきぶのな  
いし -60), 1
- おおけ おほけなく うき世の民に お  
ほふかな—わがたつ袖に 墨染の  
袖 (前大僧正慈円 さきのだい  
そうじょうじえん -95), 1
- おも 思ひわび さてもいのちは あるも  
のを—憂きにたへぬは 涙なりけ  
り (道因法師 どういんほうし  
-82), 1
- かく かくとだに えやはいぶきの さし  
も草—さしもしらじな もゆる思  
ひを (藤原実方朝臣 ふじわら  
のさねかたあそん -51), 1
- かさ かささぎの 渡せる橋に おく霜  
の—白きをみれば 夜ぞふけにけ  
る (中納言家持 ちゅうなごん  
やかもち -6), 1
- かぜそ 風そよぐ ならの小川の 夕ぐれ  
は—みそぎぞ夏の しるしなりけ  
る (従二位家隆 じゅうにいい  
えたか -98), 1
- かぜを 風をいたみ 岩うつ波の おのれ  
のみ—くだけて物を 思ふころか  
な (源重之 みなもとのしげゆ  
き -48), 1
- きみがためは 君がため 春の野に出で  
て 若菜つむ—わが衣手に 雪はふ  
りつつ (光孝天皇 こうこうて  
んのう -15), 1
- きみがためお 君がため 惜しからざり  
しいのちさへ—長くもがなと 思  
ひけるかな (藤原義孝 ふじわ  
らのよししたか -50), 1
- きり きりぎりす 鳴くや霜夜の さむし  
ろに—衣かたしき ひとりかも寝  
む (後京極摂政前太政大臣 ご  
きょうごくせっしょうさきのだ  
いじょうだいじん -91), 1
- こころあ 心当てに 折らばや折らむ 初  
霜の—おきまどはせる 白菊の  
花 (凡河内躬恒 おおしこうち  
のみつね -29), 1
- こころに 心にも あらでうき世に なが  
らへば—恋しかるべき 夜半の月  
かな (三条院 さんじょういん  
-68), 1
- こぬ こぬ人を まつほの浦の 夕なぎ  
に—焼くやもしほの 身もこがれ  
つつ (権中納言定家 ごんちゅ  
うなごんていか -97), 1
- この このたびは ぬさもとりあへず 手  
向山—もみぢのにしき 神のまに

- まに (菅家 かんけ -24), 1
- こい 恋すてふ 我が名はまだき 立ちに  
けり-人しれずこそ 思ひそめし  
か (壬生忠見 みぶのただみ  
-41), 1
- これ これやこの 行くも帰るも わか  
れては-しるもしらぬも 逢坂の  
関 (蟬丸 せみまる -10), 1
- さ さびしさに 宿を立ち出でて ながむ  
れば-いづくもおなじ 秋の夕ぐ  
れ (良選法師 りょうぜんほう  
し -70), 1
- しの しのぶれど 色に出でにけり 我  
が恋は-物や思ふと 人の問ふま  
で (平兼盛 たいらのかねもり  
-40), 1
- しら 白露に 風の吹きしく 秋の野は-  
つらぬきとめぬ 玉ぞ散りけ  
る (文屋朝康 ふんやのあさや  
す -37), 1
- す 住の江の 岸による波 よるさへや-  
夢のかよひ路 人目よくらむ (藤  
原敏行朝臣 ふじわらのとしゆ  
きあそん -18), 1
- せ 瀬をはやみ 岩にせかる 滝川の-  
われても末に あはむとぞ思  
ふ (崇徳院 すとくいん -77), 1
- たか 高砂の をのへのさくら さきにけ  
り-とやまのかすみ たたずもあ  
らなむ (前権中納言匡房 さ  
きのごんちゅうなごんまさふさ  
-73), 1
- たき 滝の音は たえて久しく なりぬれ  
ど-名こそ流れて なほ聞こえけ  
れ (大納言公任 だいなごんき  
んとう -55), 1
- たご 田子の浦に うちいでてみれば 白  
妙の-富士の高嶺に 雪は降りつ  
つ (山部赤人 やまべのあかひ  
と -4), 1
- たち 立ちわかれ いなばの山の 峰に生  
ふる-まつとし聞かば いまかへ  
りこむ (中納言行平 ちゅうな  
ごんゆきひら -16), 1
- たま 玉の緒よ たえなばたえね ながら  
へば-忍ぶることの 弱りもぞす  
る (式子内親王 しきしなしい  
んのう -89), 1
- たれ 誰をかも しる人にせむ 高砂の-  
松も昔の 友ならなくに (藤原  
興風 ふじわらのおきかぜ -34),  
1
- ちぎりお ちぎりおきし させもが露を  
いのちにて-あはれ今年の 秋も  
いぬめり (藤原基俊 ふじわら  
のもととし -75), 1
- ちぎりき ちぎりきな かたみに袖を し  
ぼりつつ-末の松山 波こさじと  
は (清原元輔 きよはらのもと  
すけ -42), 1
- ちは ちはやぶる 神代もきかず 竜田  
川-からくれなゐに 水くくると  
は (在原業平朝臣 ありわらの  
なりひらあそん -17), 1
- つき 月みれば ちぢにものこそ かなし  
けれ-わが身一つの 秋にはあら  
ねど (大江千里 おおえのちさ  
と -23), 1
- つく つくばねの 峰よりおつる みな  
の川-恋ぞつもりて 淵となりぬ  
る (陽成院 ようぜいいん  
-13), 1
- ながか 長からむ 心もしらず 黒髪の-  
みだれてけさは 物をこそ思  
へ (待賢門院堀河 たいけんも  
んいんほりかわ -80), 1
- ながら ながらへば またこのごろや し  
のばれむ-憂しと見し世ぞ 今は



恋しき (藤原清輔朝臣 ふじわ  
らのきよすけあそん -84), 1

なげき-なげきつつ ひとりぬる夜の あ  
くるまは-いかに久しき ものと  
かはしる (右大将道綱母 うだ  
いしょうみちつなのはは -53),  
1

なげけ-なげけとて 月やは物を 思は  
する-かこち顔なる わが涙か  
な (西行法師 さいぎょうほう  
し -86), 1

なつ-夏の夜は まだ宵ながら あけぬ  
るを-雲のいづこに 月やどるら  
む (清原深養父 きよはらのふ  
かやぶ -36), 1

なにし-名にし負はば 逢坂山の さねか  
づら-人にしられで 来るよしも  
がな (三条右大臣 さんじょう  
のうだいじん -25), 1

なにわえ-難波江の 蘆のかりねの ひと  
よゆゑ-みをつくしてや 恋ひわ  
たるべき (皇嘉門院別当 こう  
かもんいんのべつとう -88), 1

なにわが-難波潟 みじかき蘆の ふしの  
まも-あはでこの世を すぐして  
よとや (伊勢 いせ -19), 1

はなさ-花さそふ 嵐の庭の 雪ならで-  
ふりゆくものは わが身なりけ  
り (入道前太政大臣 にゅう  
どうさきのだいじょうだいじん  
-96), 1

はなの-花の色は うつりにけりな いた  
づらに-わが身よにふる ながめ  
せしまに (小野小町 おののこ  
まち -9), 1

はるす-春過ぎて 夏来にけらし 白妙  
の-衣ほすてふ 天の香具山 (持  
統天皇 じとうてんのう -2), 1

はるの-春の夜の 夢ばかりなる 手枕  
に-かひなくたたむ 名こそをし  
けれ (周防内侍 すおうのない

し -67), 1

ひさ-久方の 光のどけき 春の日に-し  
づ心なく 花の散るらむ (紀友  
則 きのとものり -33), 1

ひとは-人はいさ 心も知らず ふるさと  
は-花ぞ昔の 香に匂ひける (紀  
貫之 きのつらゆき -35), 1

ひとも-人もをし 人もうらめし あぢき  
なく-世を思ふゆゑに 物思ふ身  
は (後鳥羽院 ごとばいん  
-99), 1

ふ-吹くからに 秋の草木の しをる  
れば-むべ山風を 嵐といふら  
む (文屋康秀 ふんやのやすひ  
で -22), 1

ほ-ほととぎす 鳴きつる方を ながむ  
れば-ただありあけの 月ぞ残れ  
る (後徳大寺左大臣 ごとくだ  
いじさだいじん -81), 1

みかき-みかきもり 衛士のたく火の 夜  
はもえて-昼は消えつつ 物をこ  
そ思へ (大中臣能宣朝臣  
おおなかとみのよしのぶあそん  
-49), 1

みかの-みかの原 わきて流るる いづみ  
川-いつみきとてか 恋しかるら  
む (中納言兼輔 ちゅうなごん  
かねすけ -27), 1

みせ-見せばやな 雄島のあまの 袖だに  
も-ぬれにぞぬれし 色はかはら  
ず (殷富門院大輔 いんぶもん  
いんのたいふ -90), 1

みち-みちのくの しのぶもぢずり 誰ゆ  
ゑに-みだれそめにし 我ならな  
くに (河原左大臣 かわらのさ  
だいじん -14), 1

みよ-み吉野の 山の秋風 さ夜ふけて-  
ふるさと寒く 衣うつなり (参  
議雅経 さんぎまさつね -94), 1

む 村雨の 露もまだひぬ まきの葉に—  
霧たちのぼる 秋の夕ぐれ (寂  
蓮法師 じゃくれんほうし -87),  
1

め めぐりあひて 見しやそれとも わか  
ぬまに—雲がくれにし 夜半の月  
かな (紫式部 むらさきしきぶ  
-57), 1

もも ももしきや ふるき軒ぼの しのぶ  
にも—なほあまりある 昔なりけ  
り (順徳院 じゅんとくいん  
-100), 1

もろ もろともに あはれと思へ 山桜—  
花よりほかに知る人もなし (前  
大僧正行尊 さきのだいそうじ  
ょうぎょうそん -66), 1

やす やすらはで 寝なましものを さ夜  
ふけて—かたぶくまでの 月を見  
しかな (赤染衛門 あかぞめえ  
もん -59), 1

やえ 八重むぐら しげれる宿の さびし  
きに—人こそ見えね 秋は来にけ  
り (恵慶法師 えぎょうほうし  
-47), 1

やまが 山川に 風のかけたる しがらみ  
は—ながれもあへぬ もみぢなり  
けり (春道列樹 はるみちのつ  
らき -32), 1

やまざ 山里は 冬ぞさびしさ まさり  
ける—人目も草も かれぬと思へ  
ば (源宗行朝臣 みなもとのむ  
ねゆきあそん -28), 1

ゆう 夕されば 門田の稲葉 おとづ  
れて—蘆のまろやに 秋風ぞ吹  
く (大納言経信 だいなごんつ  
ねのぶ -71), 1

ゆら 由良のとを 渡る舟人 かちをた  
え—ゆくへも知らぬ 恋の道か  
な (曾禰好忠 そねのよしただ  
-46), 1

よのなかは 世の中は つねにもがもな  
なぎさこぐ—あまの小舟の 綱手  
かなしも (鎌倉右大臣 かまく  
らのうだいじん -93), 1

よのなかよ 世の中よ 道こそなけれ 思  
ひ入る—山の奥にも 鹿ぞ鳴くな  
る (皇太后宮大夫俊成 こうた  
いごうぐうのだいぶしゅんぜい  
-83), 1

よも 夜もすがら 物思ふころは 明けや  
らで—闇のひまさへ つれなかり  
けり (俊恵法師 しゅんえほう  
し -85), 1

よを 夜をこめて 鳥のそらねは はか  
るとも—よに逢坂の 関はゆるさ  
じ (清少納言 せいしょうなご  
ん -62), 1

わがい わが庵は 都のたつみ しかぞ  
すむ—世をうち山と 人はいふな  
り (喜撰法師 きせんほうし  
-8), 1

わがそ わが袖は 潮干にみえぬ 沖の石  
の—人こそしらね かわくまもな  
し (二条院讃岐 にじょういん  
のさぬき -92), 1

わすら 忘らるる 身をば思はず ちかひ  
てし—人の命の 惜しくもあるか  
な (右近 うこん -38), 1

わすれ 忘れじの ゆく末までは かたけ  
れば—今日をかぎりの いのちと  
もがな (儀同三司母 ぎどうさ  
んしのはは -54), 1

わたのはらこ わたの原 こぎいでてみ  
れば久方の—雲にまがふ 沖つ  
白波 (法性寺入道前関白太政大  
臣 ほつしょうじにゅうどうさ  
きのかんぱくだいじょうだい  
じん -76), 1

わたのはらや わたの原 八十島かけて  
こぎいでぬと—人にはつげよ あ  
まのつり舟 (参議篁 さんぎた  
-46), 1

かむら -11), 1

わび わびぬれば いまはたおなじ 難波  
なる身をつくしても あはむと  
ぞ思ふ (元良親王 もとよしし  
んのう -20), 1

おぐ 小倉山 峰のもみぢ葉 心あらば  
いまひとたびの みゆきまたな  
む (貞信公 ていしんこう  
-26), 1